

令和6年2月25日(日) 磯辺ゆう氏講演会 まとめ

「護王神社狛犬から見えてくる浪花狛犬の世界 ～特に蝦蟇型について～」

- ・狛犬とは、獣で、想像上の生物、無角の獅子と有角の狛犬で一对とされる。元来「獅子・狛犬」と呼ばれたが、今では合わせて「狛犬」と呼んでいる。
- ・材質 青銅・木・石・陶器・瓦などがある。
- ・設置場所 参道にいる（参道狛犬）、参道にいない（神殿狛犬、陣内狛犬）
奈良の人もあまり気がついていないが、東大寺南大門内、仁王像の裏側、に建久7（1196）年の国内石造最古の獅子がいる。
- ・歴史 獅子が最初に大陸から伝来し、後に角がある狛犬が誕生した。平安時代には「獅子・狛犬」が宮中で守護獣として扱われたが、鎌倉時代には神社本殿の縁などに出てきた。その後、石造の庶民のものが陣内に置かれるようになり、参道に石造狛犬を奉納することが各地で発展したのは、江戸時代になってしばらくしてからである。制作場所により江戸狛犬、浪花狛犬、出雲狛犬などがある。
- ・浪花狛犬
大阪府の石造参道狛犬の最初 元文元年 1736 大坂住吉大社太鼓橋前の狛犬
その後、大坂では徐々に増加し、大坂産の浪花狛犬は周辺地域に移出されるようになった。1800年代以降大量生産時代に入って、形は形式化
奈良県では 信貴山朝護孫子寺 宝暦8年 1758 最古
香川県瀬戸内地方では 高見島祇園社 宝暦11年 1761 最古
小豆島では 内海八幡神社 安永5年 1776 最古
直島では 護国神社 文化5年 1808（元八幡神社）最古
- ・奈良県（特に奈良盆地）内の狛犬には浪花狛犬が多く、大和川水運との関係が大きい。

☆今回 直島・護王神社狛犬（嘉永5年 1852）の製作石工探しをきっかけに浪花狛犬蝦蟇グループについて大阪府と奈良県で調査を実施し、頭部、尾、石工銘、「奉献」の文字に着目して131対を比較した結果

- ・蝦蟇グループにはA、B、Cの3タイプがあり、さらに変形版や前駆体がある。
- ・護王神社狛犬はAタイプの後期
- ・石工銘から、奈良に移出されているのは、大坂三郷（西横堀、東堀、下寺町）からのみ、Aタイプを作っているのは大坂三郷の石工のみ

☆その中で護王神社の狛犬と似たものを探して比較していくと
（ちょっと、マニアックなものを見ているようです）

大阪+奈良蝦蟇A前半 天保二年～弘化

A前半の尾

7先：4巻3直、4巻3直1.2渦、5巻1捻1直1.3渦
 8先：4巻4直
 9先：6巻3直、4巻5直
 10先：5巻5直・6巻4直 ← 岡山（早島）國辨

B：7先
 渦なしから渦ありへ

渦なし ↓ **A後半**

A：5,7,9,11先
 渦なし、渦あり

蝦蟇A前半の尾

鑄作（田原本） 天保3年1832 石屋善太	長瀬（東大阪） 天保8年1837 和泉屋安兵衛	春日（高槻） 天保9年1838	生駒山口（平群） 天保11年1840	村屋（田原本） 天保11年1840 小島屋半兵衛	春日（田原本） 天保12年1841 石屋源助	春日（大和高田） 天保15年1844	杵築（安堵） 弘化3年1846 小島屋半兵衛
-----------------------------	-------------------------------	--------------------	-----------------------	--------------------------------	------------------------------	-----------------------	------------------------------

大阪蝦蟇A後半（嘉永元年～）と瀬戸内の蝦蟇A

八坂（寝屋川） 嘉永元年1848	小豆島 奉納年不明	蒲野稲荷	村野（枚方） 嘉永4年1851	直島 護王 嘉永5年1852	粟島 尾荒魂 嘉永2年1849 石屋源助	土佐稲荷（西区） 嘉永2年1849	山本八幡（八尾） 嘉永5年1852	大江（天王寺区） 安政3年1856 和泉屋四郎兵衛
---------------------	--------------	------	--------------------	-------------------	----------------------------	----------------------	----------------------	---------------------------------

赤枠内：護王に特に近いもの

奈良蝦蟇A後半（嘉永元年～）中の近いもの

白山（広陵） 嘉永元年1848	春日（樫原） 嘉永3年1850 和泉屋五郎兵衛	推古（大和郡山） 嘉永元年1848 小島屋半兵衛	杵築（大和郡山） 嘉永元年1848 西川屋弥兵衛
--------------------	-------------------------------	--------------------------------	--------------------------------

護王狛犬の作者については、非常に似たものは出てきたが、「奉献」の文字が合わないということで、よく分からなかった、ということになりました。しかし浪花狛犬蝦蟇グループについては様々なことがわかってきそうなところではあります。

石造参道狛犬は江戸時代の大衆文化の一つ
狛犬の研究から

その地域に狛犬ブームがやってきた時期、どこの狛犬の影響を受け、どこと経済的関係が深いかなど、がわかります。

中心地で失われた狛犬が移入先で残っていることがあり、移入先の狛犬は狛犬・石工研究に資することになります。

奈良県や瀬戸内にたくさんある浪花狛犬は、当時の大坂との経済交流や大坂石工について教えてくれる貴重なものとなります。

まとめ

小豆島狛犬探究会 山西輝美

アンケートより、ご感想をいただきました。

- ・ 狛犬の年代分布と「奉献」の文字のなぞ
- ・ 視点がおもしろい
- ・ 各地から石材が運ばれて加工されたことがおもしろい
- ・ 知らないことばかりで大変興味深かったです
- ・ 海 and 狛犬どちらも楽しかった
- ・ あまり興味のなかった狛犬の色々な事がわかって面白く思いました。
- ・ ブランド狛犬が直島に来た由来に興味を湧きました。
- ・ 磯辺先生のお話は推理ショーをみているようで興味深かったです。
- ・ 狛犬から経済や物流の歴史が分かることがすごいと思えました。「なぜ狛犬か」が分かりました。
- ・ 「奉献」の考察がおもしろいと思えました。
- ・ 狛犬も時期によって使われる石屋・姿の変遷がみられること
- ・ 狛犬の細かな分類や知らないことがたくさん聞けてよかったです。